

三條別院のご案内

真宗大谷派三條別院

TEL : 0256-33-0007

E-mail : sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp



「本堂修復前の最後の報恩講」ということで、本年も大勢の参詣で賑わった三條別院お取り越し報恩講。八日に執行された御本尊動座式をはじめとして、各組から募集した助音・掛役研修



【合唱団は県内6カ所から参集】



【助音掛役研修生（習礼）】

など、二〇一五年の三條教区三條別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に向けた歩みも始まり

お取り越し報恩講厳修

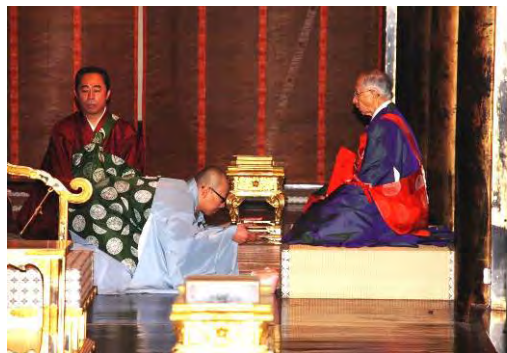
御本尊動座式執行 御遠忌法要に向けた歩み始まる

報恩講の一番初めに勤められるのは、五十名の合唱団と共に、助音方を女性のみで勤める音楽法要。初日中法要からは信明院鍵役が御参修され、三昼夜四日間に亘る法要を厳修いたしました。報恩講儀式作法講習会で



【3年目となる女性のみで勤める助音方】

講師の安藤氏が曾我量深師の言葉を基に説明された「荘厳とは象徴ということ、如来の本願という形のないものを形どるといいう意味である」という言葉が示すよ



【鍵役に御贖卓をお運びする掛役】



【講師の佐々木氏（左上）、田澤氏（右上）、池田氏（左下）と熱心に法話に耳を傾ける参詣者たち（右下）】



【真城氏はお待ち受け法要を含め3度目の来院】

うに、別院崇敬区内の僧分が集い、一年で一番「重たい」親鸞聖人の祥月命日の法要を「東の怒り節」と言われる熱のこもった音声おんじゆうと習礼を重ねた儀式作法をもつてお勤めいたしました。「お参り」するのではなく自分達で聖人の命日を「お勤め」をするのだ」とある御門徒が語られたように、参詣席からも念仏の声が絶え間なく響きました。



【村山氏の絵解き法話(上)と鷺尾輪番による御伝鈔上巻拝読(下)】

「お念仏をしてもいいことが無かった」。日常生活における我々の迷いの一場面を切り取って法話された真城義麿氏(四国教区東予組善照寺)をはじめとして、本年の法話講師は村山教二氏(第十一組願興寺衆徒)、佐々木恵一郎氏(第十組行通寺)、田澤友生氏(第十九組明誓寺)、池田陽氏(第十八組長周寺)。御伝鈔の内容に親しんでいただきたい。と、昨年より「絵解き法話」を行っており、御伝鈔の拝読とともに、親鸞聖人の求道の歩みを確かめる法座となりました。御伝鈔の拝読者は、上巻は鷺尾輪番



【三条声明会の關根氏による御伝鈔下巻拝読】



【本堂を出発する動座列】

下巻は關根大丘氏(第二十組松韻寺)。照明を落とし蠟燭の灯の下で、堂内に響き渡る声で、聖人の遺徳を讃えました。
また、三条教区の帰敬式実践運動スローガン「いただきます 法名を今」の下に帰敬式を執行し、六日に二名、七日に三十名が新たな仏弟子としてお剃刀を受けました。
また、本年は別院書道教室生徒(東友会)の共同作品「恩徳讃」の展示や、団参記念品として参詣者の身近な疑問に答える「参拝の心得」リーフレットの配布、焼香作法の看板の掲示など、スタッフ一同、種々の形で参詣者をお待ち受けさせていただきました。
結願日中(御満座)後には鍵役執行の下で御本尊動座式が勤められ、仮本堂(同朋会館二階)ま



【信明院鍵役により執行された帰敬式】



【金馬師匠が本年も3日の寄席に登場。多くの方々の力で、無事に円成いたしました】



で動座列が進み、御本尊を安置いたしました。現在仮本堂にて毎日のお勤めが行われ、本堂は既に須弥壇も撤去され着々と修復工事が進んでおります。「報恩講にはじまり、報恩講に終わる」と言われる真宗門徒の生活ですが、一年の始まりと共に、いよいよ御遠忌への歩みが具体的に始まりました。



【仮本堂で仏説阿彌陀經を讀誦】

報恩講立華見学会開催報告

「別院のお莊嚴（立華）を担う方を育てたい」この様な願いの下、十月末に当別院お取り越し報恩講の立華見学会を開催いたしました。

現在、報恩講の立華を教区内御寺院の有志にお願いしています。しかし、今後のお取持ちを考えるとかつて存在した「花講」の再結成とその担い手の育成は急務となります。

今回の立華見学会は自由見学の形を取り、十三名の応募がありました。中にはお手伝いをお願いした方もいらつしやいましたが、「自坊のお華は立てるが、これだけ大きな華を立てる自信がない」という声も聞かれました。

来年度以降には「立華講員会」を計画しており、上記の言

葉から一歩進んで「別院の立華を私を立てたい」という声が挙がるような事業にしていければと考えております。



【本年のお取り越し報恩講の中尊前の立華】

三条別院に想う

三条別院は元禄時代に建立され、現在までに二度の火災に遭い、現在の建物は明治四十一年に落慶入仏式が行われています。昔から三条は金物の町で有名ですが「三条別院」も忘れてはなりません。「御坊さま」「東別院」として親しまれています。別院は京都の東本願寺に参詣が容易でない人のため建立されたと聞いております。南は柏崎市、北は村上市、佐渡を範囲とする念仏の道場の役割を果たしています。新潟県には他に高田別院・新井別院と三つの別院があることは、宗祖親鸞聖人が居多ヶ浜に流罪となり、庶民に念仏の輪が広まったためと思われるす。

近くに別院がありながら、何か行事がなければ足を運べないのが現状であります。

私も毎年「お取り越し」には大勢のご門徒さまと参詣をしています。ご門徒さまと「正信偈」を誦し、お念仏を唱え、ご法話を聴聞し、心を洗われ、すがすがしい気持ちに浸るのも別院があるからこそではないでしょうか。東本願寺では二〇一一年に親鸞聖人七百五十回御遠忌が厳修されました。次は二〇一五年五月十九日から二十四日まで三条教区の御遠忌が勤まること決定され、着々と準備が進められています。門徒として今一度「宗祖としての親鸞聖人に遭う」ことができます。

教区、組の改編がとりざたされていますが、その中で別院としての位置づけはどうなるのか

は心配しております。この教区の御遠忌が本願念仏に生きる人の誕生と、同朋会運動のさらなる向上をめざすものとなることを願うものであります。

（第十組極楽寺住職 佐々木誠一 氏）

○次回の「三条別院に想う」は、

關根大丘氏（第十組松韻寺）より

ご執筆いただきます

本山御正忌報恩講団参報告

去る、十一月二十七日から二十九日の日程で本山真宗本願御正忌報恩講に、団体参拝してまいりました。本年の参加者は新潟駅発の二十名と、佐渡組から行き帰りのみが別日程の参加が二十名あり、計四十名の参拝となりました。

二十七日夕方以外は天候にも恵まれ、この団参のテーマである「坂東曲」に皆であうことが



【新潟駅発（上）、佐渡発（下）】

できました。開門（午前五時）からの参拝で眠気と寒さは体に堪えるという声はあったものの、坂東曲のダイナミックなお勤めに吸い込まれるように見入っていました。

日程最終日には難波別院と大阪城という本年四百回忌を迎えた本願寺十二代 教如上人の史跡を巡り、前日まで参拝していた真宗本廟、我が大谷派の成立ちや歴史を改めて見つめなおす良いご縁をいただきました。

■除夜の鐘・修正会のご案内

除夜の鐘

◇日時 十二月三十一日（火）

午前十一時四十五分より

◇場所 当別院鐘楼堂

◇受付 教区同朋会館

○受付場所にて、温かい飲み物を振舞います。

修正会

◇日時 二〇一四年一月一日（水）

深夜午前零時より

◇場所 当別院本堂 仮本堂

○お勤め後、輪番による新年の挨拶



■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

本堂修復に伴い、一年間仮本堂（同朋会館一階）でのお勤めとなります。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【十二月二十八日（土）】

午前十時 お勤め（御命日） 日中法要

文類偈 行四句目下

念仏讚 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

光井 栄史 氏 （第十六組 願善寺）

◇今後の講師一覧

一月 米山 裕子 氏 （真宗学院第一期卒業生）

二月 鷺尾 幸雄 氏 （三条別院輪番）

三月 板倉 廣由 氏 （第二十組 慈光寺）

四月 渡辺 智龍 氏 （第十八組 恩長寺）

五月 小林 智光 氏 （第十二組 淨照寺）

六月 土屋 真 氏 （第十五組 淨照寺）

■定例法話会のご案内

毎月十三日の前門首のご命日（両度の命日）に行っている定例法話会ですが、一月は休会となります。二月からは左記の通り、開催となります。

◇日時 毎月十三日 ※八月、一月は除く

午後一時三十分より（二時間程度）

◇場所 三条別院 仮本堂

◇講師

一月 休会

二月～四月

藤波 龍英 氏（第十八組 西入寺）

五月～七月

井上 正 氏（第十組 受徳寺）

■別院声明教室のご案内

年明けの二月より、声明教室受講生を募集いたします。なお、詳細については次号お知らせいたします。

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇会場 教区同朋会館（三条別院内）

◇講習内容 正信偈 草四句目下

念仏讚 洵三

和讃 弥陀成仏のこのかたは

次第六首

回向 願以此功德

◇講師 中富正純 氏（第二十三組 福照寺）

◇参加費 五〇〇円／回

■別院書道教室のご案内

当別院を会場に書道教室を開催しております。受講生を追加募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。

◇開催日 毎月二回（第二、第四水曜日）

◇時間 午後六時三十分～八時

◇募集人数 若干名

◇講師 木原 光威氏（新潟県書道協会理事）

◇持ち物 筆（大・小）、硯、下敷、

文鎮、墨液、半紙、新聞紙

◇月謝 二五〇〇円（テキスト代含む）

■別院収骨のお扱いについて

当別院では、法義相続を願いとして須弥壇収骨を行っておりますが、本堂修復工事に伴い、お扱いを中止しております。来年の報恩講後より再開いたします。なお、永代経・申経については、常時承りますので、是非ご連絡ください。

■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。

○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。

○奉仕研修会を参加いただく方（団体）の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

・日帰り 一、五〇〇円

・一泊二日 二、五〇〇円

◎食事代（昼・夕食は業者発注のため）

・朝食代 五〇〇円

・昼食代 一、〇〇〇円程度

・夕食代 一、三〇〇円程度

■同朋会館に宿泊される方へお願い

同朋会館に宿泊される方は、宿泊当日に同朋会館一階の事務所にございます宿泊者帳に記帳してください。その後、シーツクリーニング代五〇〇円とシーツを交換させていただきます。

なお、宿泊される方は翌朝七時より仮本堂にて晨朝が勤まりますので、お参りいただきますようお願い致します。また、施錠の都合上、宿泊予定の場合は必ず事前に職員にご相談ください。

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただく縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせてますので、お気軽にご相談させていただきます。

■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いをもち、法話や座談会（茶話会）など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。現在十余名の有志の皆様によって活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方にご参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせは三条別院まで。

◇◇編集後記◇◇

三条別院に勤め約八年。初めてお取り越しの御満座（結願日中）に助音方として出仕させていただきました。しかも、御後（みうしろ）。というのも、退職する私にとつて、列座として一度はという自身のおがままからである。

そのわがままを後輩たちは快く受けてくれた。とても有難く、感謝している。

声明会の方々もこんな経験や知識のない者を列座なんだからと、一列目に座らせてくれる。迷惑をかけていると思う。また、申し訳なく思う。だからこそ「列座」はそれだけ経験を積まなければならぬ。知識を増やさなければならぬ。「列座」という役は別院にしかない。その重要性を肝に銘じ、お給仕しなければならぬ。（〇）